GEN なんでも勉強会オンライン
1.5℃をめざす世界の動き
- 気候変動に関する国際交渉会議(COP)の最新レポート -

～ 開 催 要 項 ～

2024 年は観測史上最も暑い年となり、気候変動により激甚化した災害が世界各地を襲いました。国際社会ではこの気候危機に立ち向かうためにどんなことを議論し、行動しているのでしょうか。

昨年アゼルバイジャンで開催された COP29(気候変動枠組条約第 29 回締約国会議)に参加し現地で体験したことを交えながら、気候変動問題に取り組むための国際的な枠組みであるパリ協定や 1.5℃目標、気候変動に関する国際交渉会議(COP)について紹介します。

日時	2025 年 4 月 23 日（水）19 時～20 時 30 分
手段	Zoom
講師	田中十紀恵さん（認定 NPO 法人気候ネットワーク国際コーディネーター）
参加費	GEN 会員無料、一般 500 円～
定員	100 名

～ 開 催 記 録 ～

参加人数	21 名

まず、地球温暖化は人間活動が原因であるのは疑う余地がないと判明していること。産業革命前と比べて、世界の平均気温上昇を 1.5℃未満に抑えることをめざす必要があり、そのためには 2020 年代の 10 年の行動がカギとされていること。などを再確認しました。

COP では有効な対策がなかなか出てこないと感じますが、多数決ではなく全ての国の合意で決定されるため、妥協点をさぐることになるそうです。COP29 では気候資金目標が大きなテーマで、不十分ながらも一応の結果は得られました。しかし、排出削減目標は次回に持ち越されています。

トランプ米大統領の影響が心配ですが、アメリカでも 5000 以上の非国家アクターのグループ「America is All in」が政権に関係なく一貫して気候変動対策に取り組むと表明するなど、対策を進める人たちがたくさんいるとのことで心強く感じました。ひるがえって日本は CCPI による気候変動対策の取り組み評価で 67 か国中 58 位。その日本に暮らす私たちの気候変動問題に向き合う視点が、最後にいくつか示されましたが、「気候変動への取り組みは我慢ではなく、暮らしをよりよくする試み」という一節が印象的でした。